

クローズアップ

NGO・NPO

特定非営利活動法人

神戸定住外国人支援センター ～定住外国人の自立・自活へ向けて～

Close Up

NGO・NPO

設立の経緯・活動の概要

神戸定住外国人支援センター(Kobe Foreigners Friendship Center:以下、KFC)は、一九九五年一月一七日に関西一円に甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災以後、神戸を中心にボランティア活動を行ってきた「兵庫県定住外国人生活支援センター」と「被災ベトナム人支援連絡会」(被災ベトナム人日本語教室)が統合し、一九九七年に設立されました。

震災から一〇年が経ち、KFCの事務所がある神戸市長田区もまちの再開発が進んでおり、長田駅前には新しいビルが建ち並んでいます。KFCでは、このように被災地復興、救済という目的から徐々に日常生活に戻りつつある中で、震災以前から未解決であった定住外国人への生活支援などの多文化共生社会の実現に向けての活動を行っています。スタッフは、常勤職員五名、非常勤職員六名の計一一名、会員数は約二一〇人であり、二〇〇四年八月にはNPO法人に認定され、神戸市長田区を中心に「一方的に支援を押し付けるのではなく、定住外国人をとりまく障壁を取り除くことによる自立・自活支援」を理念として活動を行っています。

現地取材を通しての活動紹介

KFCの主な活動は、①言語、教育の問題、就職、住宅などの相談や、病院や市役所等へ



↑KFCは在日外国人に関する研究書も発行しています

人の歴史の研究や、北米地域などの海外の外国人をとりまく制度の調査・研究及び在日外国人研究書の発行、⑥共生社会実現に向けた施策の行政や関係機関への提言、⑦スモールビジネス起業支援事業などを行っています。ここでは、現地で取材した三つの事業について紹介します。

①在日韓国・朝鮮人高齢者のふれあいの場「ハナの会」

「ハナの会」は在日韓国・朝鮮人が集住している神戸市長田区を中心に、在日韓国・朝鮮人のハルモニ(おばあちゃん)た



↑2005年1月11日にオープンした「ハナの会」サービス

の手続きのサポートなど、多岐にわたる相談事業、②民族文化の育成・保障、③KFCハナの会、④日本語プロジェクト、⑤定住外国

ちが食事会やレクリエーションなどを通じて在日同胞との交流ができる場をつくることを目的として一九九九年九月に発足しました。

この五年間、週に一回、在日韓国・朝鮮人高齢者が集まり、スタッフと一緒に民族料理を作ったり、食べたり、おしゃべりをしたりする活動を行ってきました。しかし、在日一世の方々も高齢化が進み、介護の力を必要としている人などは、一人で「ハナの会」の食事会に来られなくなってきました。

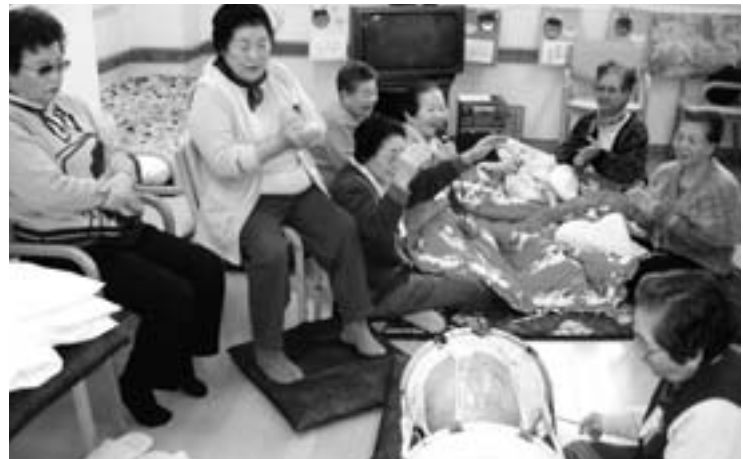
食事から総合介護サービスへ

このようなニーズを踏まえて、KFCではヘルパーを養成し、二〇〇五年一月一日に介護保険の認定を受けた「ハナの会」をデイサービスセンターとして再出発させました。デイサービスのほかに、今までの食事会をはじめ、年に二、三回のお花見会や遠足も継続していく予定です。

この施設には看護師、生活相談員、ヘルパー、調理員ら六名の職員が常駐し、食事、介助浴、レクリエーション、趣味活動、送迎などのサービスを提供しています。現在、一日に六人から二三人の利用者がいます。

デイサービスセンター「ハナの会」は、文化の違いや差別の歴史によってハンディを負う在日韓国・朝鮮人高齢者のために、民族性に配慮したサービスが受けられ、安心して過ごせる場所を提供できるのではないかという思いから設立されました。「まずは、食

文化の違いがあります。皆さんは食事のことをとても楽しみにしています。それから、



◀↑在日韓国・朝鮮人のハルモニ（おばあちゃん）たちが韓国の伝統楽器チャン・グの伴奏で、民族歌謡を歌っている姿



言葉の問題もあります。八〇歳後半くらいの方々の中には、日本語の読み書きが自由な人もいます。また、会話で日本語を使っている時に韓国語・朝鮮語が出てきたり、レクリエーションの時も、在日韓国・朝鮮人と日本のお年寄りでは楽しみ方が違って、ニーズが全く異なります」とKFC理事長の金宣吉氏がこの施設の存在意義について説明してくれました。

また、「在日韓国・朝鮮人と日本人のお年寄り、今まで受けてきた教育の問題、あるいは植民地時代のお互いの記憶などによって、どうしても心の壁をつくってしまいがちです。やはり在日韓国・朝鮮人の高齢者が一般の介護施設に入るのは難しいのです」と金理事長は語りました。

日本語プロジェクト

定住外国人が日本語のコミュニケーション能力・自己表現能力を身に付けられるよう、ボランティア支援者による日本語学習の場を設けています。

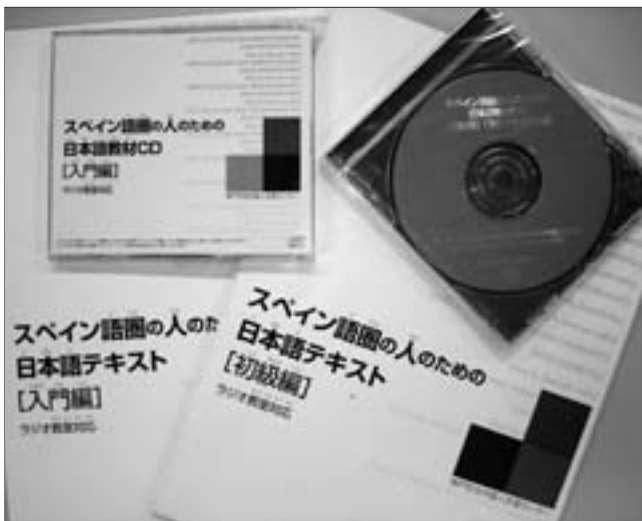
週一回のマンツーマンレッスンや週二回のグループレッスンでは、一週間に延べ五〇名が参加し、入門・初級・中級・上級と分かれて受講しています。また、レッスンで使用するテキストには、KFCが独自に試行錯誤を繰り返し作成したテキストやCDも使っています。

今期は、保育つきレッスンなども開講し、家族連れで受講できるなど、定住外国人のニーズに応じたレッスンを実施しています。

〈定住外国人の民族性を活かしたスモールビジネス起業への支援〉

定住外国人の自立支援の一つとして、KFCは二〇〇二年に起業意欲がある外国人を対象とした「スモールビジネス起業支援講座」を開催しました。第一回は五回シリーズの講座で、中小企業診断士や税理士を講師として招き、地域に住む外国人に起業に必要な資金調達、財務管理などの講義を行いました。

翌年の第二回講座では、第一回の講座で参加者の関心が高かった「貿易」と「飲食店経営」の分野に絞り、税関職員や商業施設コンサルタントのほか、実際に各分野で成功し、活躍されている外国人経営者を招き、二日



※KFC作成日本語学習教材

スペイン語圏の人のための日本語教材
[入門編・初級編]

- ・テキスト入門編・初級編：各2,500円
- ・CD入門編(2枚組)6,000円、初級編3,000円
- ・セット(入門編・初級編のテキストとCD)は12,000円

*在日スペイン語圏の方は半額です。
*購入方法やお問い合わせはKFCまで。

間のセミナー形式で行いました。

「定住外国人は、このようなセミナーに対するニーズが一般的に高いのですが、国籍によって温度差があります。例えば、ペル一人は起業意欲が高く、中国人もとても熱心です。しかし、ベトナム人はあまり関心がないようです」と金理事長は説明してくれました。

そして第三回の講座では、商店街の方を対象に、地域の商工会議所と連携し、六回シリーズの「多文化を生かした商業振興を考える」講座を開催しました。これは外国人がスモールビジネスを起業する時に、商店街などの協力と理解も必要と考え、受入れ側の意識を向上させることを目的としたものです。

第三回の講座に参加した、商店街で肉屋を経営している正岡健二氏は「このような講座を通じて、皆に外国人の魅力を感じてもらうことができます。やはり、話を聞いてみないと、触れ合わないと分からないことが多いです。例えば、『ベトナム文化を知る』セミナーでベトナムコーヒーのことを初めて

知って、この商品を商店街の喫茶店においてもいいのではないかと、熱心に語ってくれました。



↑在住外国人は「スモールビジネス起業支援講座」で起業するノウハウを身に付けます

スモールビジネス起業講座がきっかけで、エスニックメディアが誕生

〜コウベ・トリウンファ

「在日ラテンアメリカ人にやる気と元気を与えたい」という思いから、「Emprendedores en Japon」の元編集長、屋良フランシスコ氏はこのスペイン語の月刊情報誌を創刊しました。

屋良氏はKFCの第一回と第二回のスモールビジネス起業支援講座に参加して刺激を受け、常々抱いていた彼の考えを実現すべく「コウベ・トリウンファ」を立ち上げ、「Emprendedores en Japon」という情報誌を発刊するに至りました。

当情報誌の翻訳担当者の内藤普子氏は、「多くのスペイン語圏の外国人が専門知識を持っているにもかかわらず、工場で働いています。工場で働きながら、起業を考えている人も多いようですが、一つ大きな問題は

(特活) 神戸定住外国人支援センター Kobe Foreigners Friendship Center

〒653-0038 神戸市長田区若松町2-13-1 PIAZZAビル2F TEL 078-612-2402 FAX 078-612-3052

E-mail: kfc@social-b.net URL: http://www.social-b.net/kfc

情報不足です。元編集長は、起業のための情報を同胞に提供するための情報誌を作り、皆に元気を出してもらいたいと考えたので」と語りました。

情報誌の対象は主にスペイン語圏の在住外国人ですが、日本語に翻訳された記事もあります。それは特に、起業をした外国人の苦労話や考え方など、日本人にも外国人の現状を分かってもらいたいという屋良氏の意図からでした。

日本ではいくつかのスペイン語のウェブサイト・メディアがありますが、「Emprendedores en Japon」はほかのスペイン語の情報誌と競争するのではなく、スペイン語圏の在住外国人に今まで存在していなかった情報を提供することを目的としています。毎月、在住外国人に対して、起業をするためにどのような準備が必要か、努力することの大切さ、リーダーシップに関する記事などを掲載しています。

二〇〇三年五月、「Emprendedores en Japon」は簡単なコピー印刷でできた情報誌として創刊されたのですが、現在はフルカラーの表紙に四〇ページもの情報満載の情報誌になり、大使館や教会、中南米系レストランなどに無料配布されています。発行部数も、好評につき当初の三〇〇〇部から七〇〇〇部に増刷されました。この情報誌は八人の日本人やペルー人などのスタッフがボランティアで企画、取材、編集、広告募集などを行っています。



↑「Emprendedores en Japon」が伝えたいメッセージは「もしやりたいことがあれば、エネルギーを持って、諦めないように努力することです」

編集協力者のペルー人のベロニカ氏は、

「近年、中南米から来ている労働者が定住化する傾向があり、大半の人は工場に就職しますが、多くの人がリストラの対象になりがちなので、失業したらどうやって生活していくのかななどの問題で不安を常に抱えています。しかし、多くのラテン系の人たちは日本で自分の店をつくりたい願望があります。特にこれから日本で定住するつもりがある人たちの中には『自分は何かができる』と考えている人がこの一〇年間でかなり増えていきます。しかし、彼らにとって、言葉の壁は大きな問題です。日常会話ができて書類の処理や商談などに必要な日本語能力がありません。そんな彼らにとってこの情報誌はとても貴重な情報源となります」と説明してくれました。

「ウェブ・トリウンファは情報誌「Emp-

rendedores en Japon」を発行する一方、起業に関する相談電話も受け付けており、現在のところ、相談者は関東地方に住んでいるスペイン語圏の人からが多いそうです。将来的には、「Emprendedores en Japon」はスペイン語圏出身の方の起業事例だけではなく、いろいろな国籍の起業者の記事も取り上げたいと考えているとのことでした。

最後に

多文化社会が進んでいく中で、定住外国人に対するさまざまな壁や問題を、すべて解決することは難しいかもしれません。今紹介した例は、福祉や経済的な問題という新たなニーズに対する注目すべき取り組みだと考えます。各事業に参加している方々の生の声を聞くことができ、少しでも障壁を取り除くことによって、さらなる多文化共生社会の実現へ向かっていくエネルギーを感じました。今後も、定住外国人の視点に立って柔軟に事業を展開し、一層地域社会へ貢献していただくことを期待します。

(財)自治体国際化協会調査部連絡調整課

垂水 洋(松山市派遣)

(財)自治体国際化協会調査部

チョング・コーピン

KOBE TRIUNFA
〒662-0872 兵庫県西宮市高座町一四四五A
TEL/FAX: 07899-7008811
六〇三
E-mail: kobe_trifunfa@yahoo.co.jp